

令和7年度第2回山口県医療審議会・議事概要

1 日時・場所

令和8年3月13日(金) 16:00～17:20 共用第3会議室

2 審議（委員の主な意見）

○ 病床機能再編への支援について

【原田委員】

- ・ はるなウイメンズクリニックの説明中の「病床削減で生じる余剰スタッフ」について、看護職が該当すると思われるが、当該余剰職員に不利益が生じたなどの報告は無いか。

⇒ 病床削減に伴い余剰となった職員が、待遇上の不利益を受けたという報告は承知していない。

産婦人科領域の専門性の高い職員が多いと考えられることから、当該医療機関が実施する妊婦健診への従事など、地域における一定のニーズもあるものと思料する。

<議案は承認された>

3 報告事項

○ 山口県地域医療構想の推進について

【神徳委員】

- ・ 宇部・小野田圏域のモデル推進区域の取組について、同取組により、同圏域の住民の健康維持が増進されるよう祈るところ。
- ・ 下関圏域の病院統合については、今般、形が見えてきたところであり、「全室個室化が可能なレイアウト」により感染症のパンデミックにも対応できる点等、評価する。

○ 地域医療介護総合確保基金（医療分）の取組状況について

【神徳委員】

- ・ 「看護師等養成事業」について、現状、看護学校の運営費には医師会も負担をしているところだが、物価高騰の影響などに鑑み、補助率を増加していただきたい。

【加藤委員】

- ・ 「看護師等養成事業」について県内定着率を考慮すべく検討いただきたい。

⇒ 県内医療機関における看護師の確保、定着のためには、県内看護師等養成施設の安定運営は重要であると考えます。今後の施策検討の参考とさせていただく。

【松永会長】

- ・ 「持続可能なへき地医療促進事業」について、引き続き、総合診療も含めてへき地で貢献する医師の処遇の改善や、派遣元の医療機関に対する支援等、取組を強化・加速するようお願いする。

○ 山口県保健医療計画の進捗状況について

【松永会長】

- ・ 保健医療計画の進捗については、概ね着実に進んでいる中、維持・後退となっているものには、がんに関するものが多いように見える。
- ⇒ 維持・後退となっているのは、実績値の未反映や取組の効果がまだ表れていないものと思料する。
- 計画期間は6か年であることから、子宮頸がんなど特定部位の検診受診率の向上など、さらなる推進が求められる個々の取組を進めてまいりたい。

【丹委員】

- ・ 小児医療に係る「保護者を対象とした小児の適切な受診を促進する講習会の受講者数」について、対面の講習会だけでなく、効果的な情報提供の方法も検討しつつ、数値を改善する必要があると考える。
- ⇒ コロナ禍の影響等により対面の講習会をオンライン実施した経緯もあることから、今後の講習会のあり方については、検討していきたいと考える。

○ 新たな地域医療構想に関する国の検討状況について

【神徳委員】

- ・ 構想区域の拡大について、山口県はどのように考えているか。
 - ・ また、構想区域の拡大がされるに際しては、ある医療圏の地域医療構想調整会議の委員がオブザーバー等として他の医療圏のそれに参加できるような体制を検討いただきたい。
 - ・ 急激な人口減少等、本県の状況を踏まえた丁寧な検討をしていただきたい。
- ⇒ 構想区域については、人口規模や住民の医療へのアクセス、隣接する医療圏間の患者の流出入等を考慮し決定する必要があるところ、今後、発出される新たな地域医療構想の策定ガイドラインに基づき検討して参りたい。

【高橋委員】

- ・ 新たな地域医療構想においては、精神医療も位置づけられるが、本県は精神障害全般に対応するもの、アルコール障害や思春期を専門に見ているもの、高齢者を始めとする認知症を見ているものといった医療機関のばらつきに特徴があるところ、これを加味した検討をお願いしたい。

【加藤委員】

- ・ 精神科医療については、例えばアルコール依存症や思春期への対応等、現状、医療圏を超えて医療提供をしているところ、このような観点も考慮して検討していただきたい。

⇒ 精神医療の対象となる患者の受療動向に加え、退院後の地域生活における介護や福祉等との連携など、総合的な視点に基づき、精神医療の所管課とも十分に連携し、今後の検討をして参りたい。

○ **医療法人設立認可等の状況報告について**

意見等なし

以上